観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年　7 月　29 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）那覇市観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 那覇市	
所在地	沖縄県那覇市 3-2-10(てんぶす那覇 1 階)	
設立時期	・1954 年（昭和 29 年）1 月 9 日設立 ・1956 年（昭和 31 年）10 月 5 日社団法人認可得 ・2013 年（平成 25 年）3 月 21 日一般社団法人認可取得	
事業年度	４月１日から翌年３月３１日までの１年間	
職員数	25 人【常勤 19 人（正職員 4 人・出向等 1 人)、非常勤 5 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 宮里　一郎 （出身組織名） 沖縄ホテル会長	(一社)那覇市観光協会会長として、強力なリーダーシップと発言力により、行政及び観光業界に対して、観光振興のための事業等の提案・定義を行う。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	氏名） 末吉　正幸 （出身組織名） 那覇市役所	那覇市経済観光部長を歴任 観光・水産・商店街等の観光関連業務において、豊富な経験と知識を有しており、観光・経済団体と幅広いパイプを持っている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 平良さやか【専従】 （出身組織名） (一社)那覇市観光協会	当協会において、長年にわたり財務状況の把握、管理について豊富な経験を有している。

様式１

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 玉村　剛　　【専従】 （出身組織名） (一社)那覇市観光協会	約 25 年一括して当観光協会に従事。イベント・指定管理など統括。各団体との調整・プロモーションに取り入れた取組などの経験を有している。
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 親里恵梨香　【専従】 （出身組織名） (一社)那覇市観光協会	（一財）沖縄観光コンベンションビューローや旅行社などに長年勤務するなど沖縄観光について精通しており、着地型商品の造成など豊富な知識と経験を有している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	沖縄県那覇市経済観光部観光課 市の観光政策統括、那覇市観光基本計画推進、ブランディング、マーケティング、プロモーション、ＫＰＩ統計資料作成、旅行商品造成促進、観光危機管理	
連携する事業者名及び役割	(那覇市) ①　　商工農水課：物産（土産品・伝統工芸品）の販売促進等、人材育成 ②　　なはまち振興課：観光名所（国際通り・公設市場等）環境整備、商店街連携 ③　　文化財課：(文化・芸術の振興、識名園・玉陵等の観光資源活用) ④　　文化振興課：(文化・芸能の振興、伝統イベント等の活用連携) ⑤　　防災危機管理課：(観光客を含めた防災対策、観光危機管理) ⑥　　都市計画課：(交通政策全般、二次交通対策・モノレール、都市景観整備・観光地修景) (交通) ①　　沖縄都市モノレール(二次交通の充実) ②　　沖縄県バス協会(二次交通の充実) ③　　沖縄県タクシー・ハイヤー協会(二次交通の充実) （広域連携） ・一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー:(誘客・広報)	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】① ①当協会には多業種(一般・飲食・交通・宿泊・お土産・観光施設・行政等)333 企業が会員企業として加盟しており、加盟企業を代表して 22 名(宿泊、航空会社、商店街振興組合連合会、伝統工芸、飲食業組合、マスコミなど幅広い関係団体の代表者が理事として理事会に参画し、事業計画や事業予算等の決定に参画している。 ②令和 3 年から新たに四役会議を立ち上げ、連携強化に取り組んでいる。 ③那覇市観光審議会によるＫＰＩを含む観光施策の点検評価、那覇クルーズ促進連絡協議会、那覇市商店街連絡協議会において受け入れ態勢や環境整備等の具体的な方策等についての検討や情報の共有化を図っている。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	地域や地場産業及び市民ガイドと連携した「那覇まちま～い」事業を実施することにより、地域と産業振興と一体となった持続可能な観光地づくりに取り組んでいる。 ②上記「那覇まちま～い」を実施するにあたり、年に 2 回パンフレットを作成し、当該プログラムを催行実施していくうえで、那覇市管轄の自治会長会に参加して、地域資源の観光活用について説明することで周辺自治会の	

<table>
<tr><td></td><td>ご理解とご支援をいただいている。自治会長会でのご質問については適宜対応するとともに、コース内容の変更等の見直しも実施している。
③当協会事務局内に語学ボランティアバンクを設置し、クルーズ船入港時や　各種イベント、インバウンド向けの観光危機管理の訓練等に活かしている。
④「那覇まちま～い」4コース(那覇市民限定参加費無料)実施し、観光に対する
理解を深める取り組みを実施している。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・誘客宣伝・情報発信事業
誘客宣伝活動(金沢市・広島県)
②　沖縄物産展(那覇観光アンバサダー派遣)沖縄物産公社連携
③　観光サイト・観光アンバサダーSNS 情報発信
④観光ガイドブック作成・発送提供
⑤外国人観光客向け特集記事掲載
⑥観光情報誌・WEB などへの素材提供
⑦那覇市観光 PR(連携・協力)
PV 制作(那覇商工会議所青年部)
PV 制作(沖縄大学ゼミ)</td></tr>
<tr><td>受入環境の整備</td><td>・那覇市観光案内所運営事業
日本政府観光局認定のビジットジャパン案内所（カテゴリーⅡ）として、国内外の観光客を迎え那覇市及び沖縄県内の観光地案内、手荷物預かり、車いすの貸し出し、会員店舗のパンフレット配布などの情報発信と受け入れ態勢
の充実強化に取り組んでいる。

②クルーズ船受入整備事業
那覇クルーズ促進連絡協議会から、臨時観光案内所設置運営等の業務を受託し、クルーズ寄港時に若狭クルーズ船ターミナルや第２ＣＢ入港時には県庁前広場に臨時観光案内所を開設し、乗客、乗員への観光案内サービスやタクシー案内等を実施し、満足度向上に取り組んでいる。

③　(飲食・宿泊・お土産・観光危機管理)翻訳補助

④　那覇ウェルカムサポーター登録者スキルアップ研修

⑤　清掃活動(観光協会・沖縄県・ＯＣＶＢ)共催</td></tr>
<tr><td>観光資源の磨き上げ</td><td>・那覇観光まちづくり整備事業（那覇まちま～い）
団体客から個人客への旅行形態の変化や、那覇市にもう１泊していただくためのコンテンツとして、地域資源を活用した着地型商品の開発に取り組んでいる。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

②Naha Walking Tours(まち歩き)
　インバウンド向け商品として「首里城コース」「壺屋コース」「市場コース」造成した。ガイドには通訳士・地域限定通訳士などを中心にガイド養成を行い、満足度の高い商品の提供に取り組んでいる。

③琉球文化日本遺産(人材育成・調査研究事業)
　日本遺産認定ストーリー及び構成文化財の知識を有し、地域の一体的な魅力を紹介できる「日本遺産ガイド・受講修了者」30 名
④　　那覇の文化を体感する SUGURIMUN(すぐりむん)
那覇市には、壺屋焼、首里織、琉球びんがた、琉球漆器、琉球ガラス等、普遍的価値を持ち、長い年月にわたり受け継がれてきた伝統工芸があり、その繊細で美しい工芸品の数々は、国内外の観光客を魅了し続けている。
脈々と受け継がれてきた『匠の技』に触れ、専門家の直接指導によって「那覇」でしかできない、自分だけの特別な作品を創り上げることで「満足度の高い体験」や「本物の魅力」を提供する。

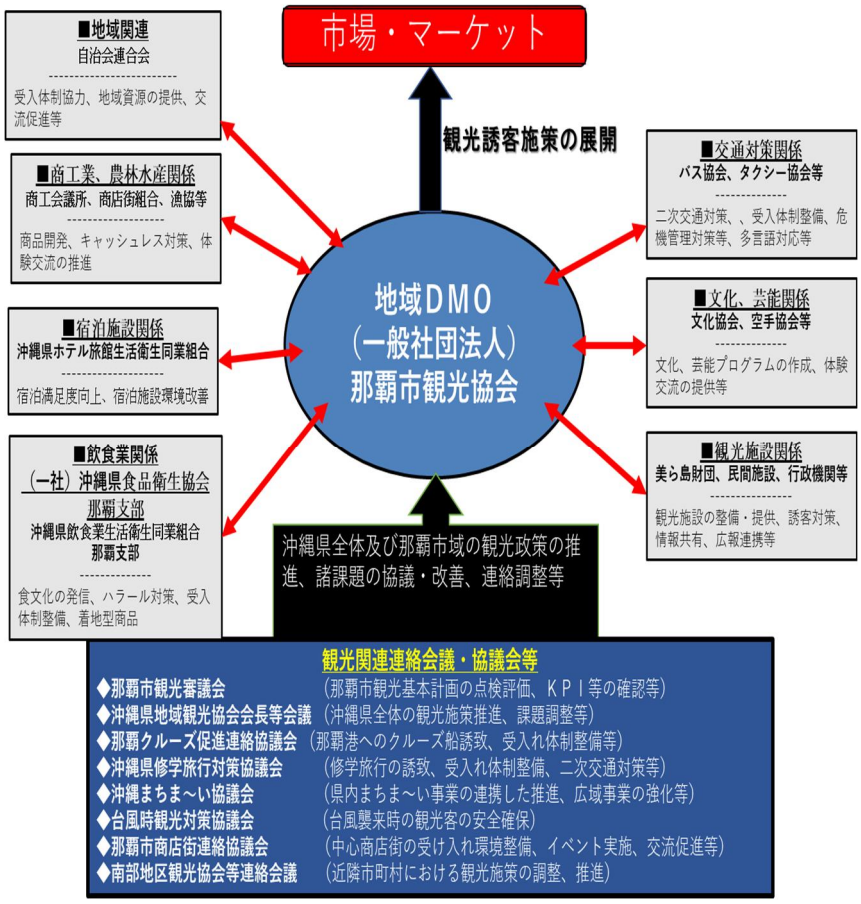
【定量的な評価】
①　　「那覇ナビ」公式サイト
令和 4 年　　620,097
令和 5 年　　920,387(国内 793,151 海外 127,236)
令和 6 年　　514,043(国内 419,858 海外　94,185)

②　　那覇市観光案内所
(来所者数)
令和 4 年　61,990 名(国内：59,483 名　海外：2,507 名)
令和 5 年　18,760 名(国内：12,632 名　海外：6,128 名)
令和 6 年　25,651 名(国内：18,106 名　海外：7,545 名)
(資料発送数)
令和 4 年　　893 件　(発送部数：100,290 部)
令和 5 年　　915 件　(発送部数：132,690 部)
令和 6 年　　888 件　(発送部数：121,782 部)

③　　那覇観光まちづくり整備事業
(参加者)
令和 4 年　2,376 名
令和 5 年　1,244 名
令和 6 年　1,513 名

④　　Naha Walking Tours
令和 5 年　　31 名
令和 6 年　　7 名

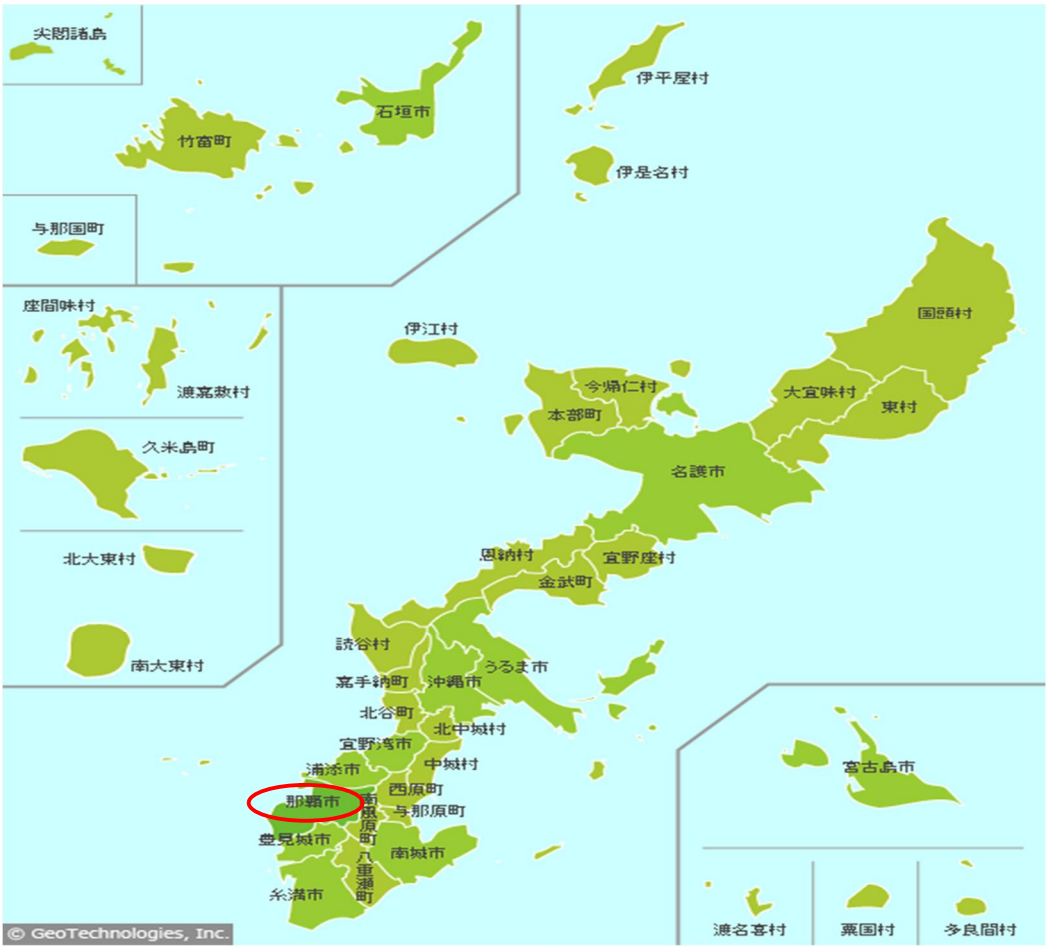
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 一般社団法人那覇市観光協会の意思決定機関である理事会には、宿泊・飲食・旅行社・航空会社・マスコミ、行政など幅広い関係者が理事として参画しており、官民一体となって那覇市の観光振興に取り組んでいる。さらに、幅広い関係者の意見の収集・課題を把握するため、観光関連連絡会議や協議会等に参加し、関係機関と連携しながら運営を実施。 **【実施体制図】** 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

那覇市は沖縄県の県都で、且つ政治・経済・物流の中核であり、また（空路・海路）玄関口である。当法人の設立目的で那覇市の観光振興に寄与するとの事から那覇市を区域とすることが適切

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

沖縄県の発表によると。令和 6 年度（2024 年度）の入域観光客数は 995 万 2,400 人で、対前年度比で 141 万 9,800 人、率にして 16.6%増となった。これまで最多を記録した平成 30 年度に対しては、99.5%の水準まで回復している。国内観光客が過去最多を記録したほか、外国人観光客についても、国際航空路線やクルーズ船の寄港回数の増加等により段階的に回復している。令和 7 年度については、国内観光客が好調な状況であること、クルーズ船の寄港が多数予定されていること等から引き続き好調に推移すると見込まれる。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

那覇市には琉球王国に由来する文化や行事が数多くあり、那覇三大祭である那覇ハーリー、那覇大綱挽まつり、琉球王朝祭り首里などの伝統的な祭りをはじめ、一万人エイサー踊り隊や沖縄国際文化祭など参加型のイベントも数多く実施されている。また冬場の温暖な気候を生かした、プロ野球

読売巨人軍春季キャンプをはじめとするスポーツイベント等も数多く開催されており、伝統、歴史、文化、スポーツ等様々なテーマで繰り広げられるイベントが魅力である。
「那覇ハーリー体験乗船」「ギネス級大綱挽」など、誰でも参加・体験ができる取り組みを実施している。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】
近年は那覇市内全域で新規ホテル開業が見られる。
・令和６年６月２５日現在の那覇市内ホテル数及び客室数（出典：沖縄県宿泊施設実態調査）
施設数（５００件）
客室数（２２，２５８室）
収容数（５３，６３３人）

【利便性：区域までの交通、域内交通】
那覇空港から市内中心部まで車で（国際通りまで約 20 分）
那覇空港から市内中心部までモノレールで（県庁前駅まで約 12 分）
那覇空港から路線バスで（バスターミナルまで約 20 分）

【外国人観光客への対応】
那覇市観光案内所（英語・中国語・韓国語対応）JNTO カテゴリーⅡ
クルーズ船受入れ（臨時観光案内所開設）那覇ウェルカムサポーター配置
外国語翻訳サポート（宿泊・飲食）等
多言語(ガイドブック・ガイドマップ)作成・提供
Naha Walking Tours(着地型商品造成・販売・ガイドスキルアップ研修の実施)
Web(外国人向け特集記事)掲載

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光消費の実態や市域への経済波及効果を把握し、より効果的な施策展開につなげる。	那覇市経済観光部より入手
延べ宿泊者数	観光客の宿泊動向把握と経済波及効果の分析等	那覇市経済観光部より入手
来訪者満足度	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
リピーター率	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
ＷＥＢサイトのアクセス状況 http://naha-navi.or.jp	より効果の高い情報発信のあり方を模索するため	アクセス解析による分析（訪問数・ページビュー・その他）
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解や意識を調査、受け入れ体制整備の基礎資料	那覇市経済観光部より入手（那覇市民意識調査[隔年実施]）

様式１

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

那覇市は沖縄観光のゲートウェイとして、交通連節や宿泊、飲食物販などで中核的機能を担っており、また目指すべき都市像の一つに「観光交流都市」を掲げています。
ここ数年は那覇市を訪問する外国人観光客の増加、「那覇クルーズターミナル」「那覇空港第二滑走路」の供用開始など、観光客数の更なる増加と来訪目的の多様化に伴う受入れ整備の充実が求められており、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加につなげることとしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・約 450 年続いた琉球王国の王都として独自の文化を形成して繁栄した都市であること。 ・琉球王国時代から連綿と続く、伝統文化、工芸品、世界遺産群等（首里城・識名園・園比屋武御嶽石門・玉陵） ・市内に海水浴、ダイビング、バーベキューが楽しめるビーチがあり、隣接する国立公園慶良間諸島へのアクセスも良く、都市部ながらマリンレジャーや自然体験を主目的とした観光も楽しむことができる。 ・宿泊施設・飲食店舗・夜間営業店舗の豊富さ。 ・モノレールをはじめ公共交通の充実 ・有名な繁華街の存在（国際通り）	弱み（Weaknesses） ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・沖縄の中北部の通過点 ・観光バスやレンタカー駐車場不足 ・専門人材の不足 ・慢性的な交通渋滞
外部環境	機会（Opportunity） ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・那覇空港の第二滑走路の供用による航空便の拡大 ・大型クルーズ船受入第２クルーズ船バース運用開始による寄港数増 ・沖縄県入域観光客数 1,000 万人 ・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画 ・那覇市観光基本計画	脅威（Threat） ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・台風など自然災害 ・近隣地域の社会情勢（基地関連） ・オーバーツーリズムによる環境悪化

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
国内観光客(東京・関西・福岡・名古屋)

〇選定の理由
沖縄県の観光統計によると沖縄を訪れる約 85%は国内観光客となっている。また円安による海外旅行から国内旅行への訪問地変更など期待できる。
那覇市観光統計においてもリピーター率が増加傾向にあることから、(東京・関西・福岡・名古屋)方面からの誘客強化を図る。
※４．戦略（１)・(２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。
（例）他地域と比較して当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。

〇取組方針
リピーターは他県に比して多いものの、一方では未来訪者も多い。よってライフイベント（修学旅行生・ハネムーン・学生旅行・カップル・夫婦・三世代・プロ野球ファン）などのあらゆるマーケットセグメントに合わせた魅力ある（旅まえ・旅なか）情報の発信を行うことで、再来訪に繋げる。

（例）満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。

〇ターゲット層
欧米（アメリカ及びヨーロッパ）

〇選定の理由
沖縄県及び OCVB(一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー)は、重点地域(台湾・韓国・香港・中国本土)のみならず、新規市場である北米、欧州、豪州からの誘客促進を強化する方針を打ち出しており、地域 DMO として地域情報の発信提供などで広域 DMO と連携する。
・那覇市はクルーズ船の寄港地として 2024 年は寄港回数第 2 位（175 回）であり、その多くは、中国本土、台湾、香港からの誘客となっているが、今後は比較的滞在時間の長い欧米や国内客のクルーズ船誘致にも取り組みたいと考えている。
・那覇市は「空手発祥の地」でもあり、欧米の空手愛好家のある意味「聖地巡礼」的な要素も持ち合わせている。
・欧米から航空機で来訪するインバウンドは滞在期間が近隣アジア諸国の観光客よりも比較的長い傾向にあるためこの点に着目し、地域経済活性化に資すると考えている。
・米軍基地関係者・家族など訪問が見込める。
〇取組方針
・訪日外国人旅行者の滞在日数及び消費単価の向上を図るべく、那覇まちま～い（まち歩き）をベースにした多言語コースの造成やガイドの養成を行い旅行商品としての販売を目指す。
・ＷＥＢ／ＳＮＳ等による情報発信を強化する。
・那覇市観光案内所やクルーズ船臨時観光案内所など、外国人観光客の動向を確認することで、さらなる消費拡大につなげる。
・米軍基地内の旅行者・ＯＩＳＴ(沖縄科学技術大学院大学)との連携を模索する。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	世界遺産にも登録されている琉球王朝の歴史・文化とその流れを汲んだ現在の那覇市の都市観光を楽しむ。 ※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。
②コンセプトの考え方	那覇市には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産登録された文化史跡９箇所のうちの４箇所、それに関連する文化や史跡が数多く残されており、中心部の国際通りは第二次世界大戦後の復興のシンボルとして市民の生活文化の中心であり、県内有数の観光地として(歴史・文化・食・伝統芸能)が一堂に体験できる地域である。 また沖縄県内はレンタカー移動が支流であるが、公共交通（二次交通）を利用した観光情報発信をすることにより、免許を持たないＺ世代の誘客、慢性的な交通渋滞のストレス緩和、不慣れな地域での運転を敬遠する層にも配慮した魅力的な観光都市を目指す。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	・理事会(事業計画・事業報告)説明・承認(年２回) ・総会(事業報告・事業計画)説明・承認(年１回) ・交流会での意見交換会の実施(年１回) ・公式 HP(役員名簿・事業報告・決算報告・事業計画・収支予算)公開 ・各種案内(メール発信)不定期 ・各種会議への参加(意見交換)適宜 ・地域自治会長会議(年２回)
	「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づく、多様な業種が参加する年２回の理事会及び年１回の総会のほか、那覇市観光基本計画(那覇市観光審議会)答申を踏まえた取組の確認・修正。 また不定期ではあるが、ホテル組合や飲食業組合との情報交換、各種会議への参加で取組の周知を図る。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	当協会会員の飲食店や土産品店及び宿泊施設に、当協会の年度ごとに発行する会員証を掲示することにより、お客様に安心して利用いただき会員店舗にはより良いサービス提供を指導する 協会会員証

様式１

観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	那覇市観光案内所（ＪＮＴＯカテゴリーⅡ）で情報収集を行い、正確新しい情報を提供するとともに、当会発行観光情報誌ＮＡＨＡ−ＮＡＶ会員店舗の紹介、イベント情報発信を実施する。 またＷＥＢ関連ツールでの対応強化をはかる。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（億円）	目標	2,114	2,965	3,815	5,372	5,496	5,628
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	1,907	3,644	4,340			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（万人泊）	目標	488	585	782	983	1,184	1,587
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	495	808	900			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●来訪者満足度（%）	目標	94	94	94	設定なし	設定なし	設定なし
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	96.7	95.9	91.8			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	77	78	79	設定なし	設定なし	設定なし
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	72.1	89.9	57.6			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

那覇市の目指す「国際的な観光交流都市」としてのさらなる発展に向けては、ゲートウェイ機能の強化、MICE の積極的な誘致・開催、そして地域観光資源の磨き上げによる観光の充実が重要な柱となる。これらの施策を総合的に推進することで、交流人口の拡大のみならず、地域経済への波及効果の最大化を図ることが求められると考えており、観光消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率など指標および目標数値を設定している。

※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

・・・

る。今後も多くの方々に満足いただける観光地を目指すため、これまでの実績を維持する目標値で設定。
R7 以降来訪者満足度の目標値については、基本計画等に定めがないため設定困難となるが、実績値については那覇市観光統計から取得する。
●リピーター率
R6 那覇市に再訪の意思がある観光客は 90%前後となっており、実際の再訪率も 75%前後と高い割合で推移している。新規来訪者が今後の再訪者にも繋がることから、一定割合の新規来訪者は必要であり、再訪率はこれまでの実績を維持する目標値で設定。
R7 以降来訪者満足度の目標値については、基本計画等に定めがないため設定困難となるが、実績値については那覇市観光統計から取得する。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●住民満足度（%）2 年に 1 回実施	目標	実施なし	72.2	実施なし	62	63.5	65
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	実施なし	68.7	実施なし			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●HP ページビュー数	目標	470,028	713,111	920,387	943,088	943,088	943,088
		(46,120)	(71,311)	(82,000)	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	620,097	920,387	514,043			
		(64,120)	(127,236)	(94,185)			
●（例）ワンストップ窓口での宿泊予約数（件）	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			
●（例）メディア掲載回数（回）	目標						
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			
	実績						
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
(市民満足度調査)2 年に 1 回実施
日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んで いる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。
R7 住民満足度の目標値については、第 2 次那覇市観光基本計画の観光客に来訪してほしいと思う市民の割合から算出

(公式 HP ページビュー)
団体旅行（パッケージツアー）から個人旅行（ＦＩＴ）への移行から、今後はインターネットで（旅まえ・旅なか）など地域の情報発信が益々重要になってくると考えている。

【設定にあたっての考え方】
●(市民満足度調査)
「住んでよし」「訪れてよし」の観光地を目指すに当たり、市民の観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について把握する必要がある

●(ページビュー)
Ｇｏｏｇｌｅアナリティクスなどで定期的なアクセス分析を実施することにより、ユーザーに必要な情報提供を目指す。
2024(R6)は目標(920,387)として情報発信に努めたが、2022(R4)に近い数字まで減少した。情報内容を見直しながら有益な情報発信に取り組む。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	144,475,683（円）	【国からの補助金】6,000,000（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】96,197,424（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】28,841,259（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等)】等 13,437,000（円）
2023（Ｒ５）年度	136,754,547（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】99,198,675（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】24,738,872（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等)】等 12,817,000（円）
2024（Ｒ６）	163,625,000（円）	【国からの補助金】0（円）

年度		【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】132,219,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】18,406,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等 13,000,000（円）
2025（Ｒ７） 年度	17,694,000（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】141,154,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】22,786,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等 13,000,000（円）
2026（Ｒ８） 年度	17,694,000（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】141,154,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】22,786,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等 13,000,000（円）
2027（Ｒ９） 年度	17,694,000（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】141,154,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】22,786,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等 13,000,000（円）

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	144,175,364（円）	【一般管理費】104,860,226（円） 【情報発信・プロモーション】3,932,181（円） 【受入環境整備等の着地整備】13,313,205（円） 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】10,402,001（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】0（円） 【観光イベントの開催費】等 11,667,751（円）
2023（Ｒ５） 年度	143,709,043（円）	【一般管理費】104,810,597（円） 【情報発信・プロモーション】4,619,803（円） 【受入環境整備等の着地整備】12,791,936（円） 【コンテンツ（観光資源の磨き上げ）】5,986,853（円）

		【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】0（円） 【観光イベントの開催費】等 15,499,854（円）
2024（Ｒ６） 年度	163,609,000（円）	【一般管理費】118,061,000（円） 【情報発信・プロモーション】4,339,000（円） 【受入環境整備等の着地整備】19,540,000（円） 【コンテンツ（観光資源の磨き上げ）】2,330,000（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】0（円） 【観光イベントの開催費】等 19,339,000（円）
2025（Ｒ７） 年度	176,623,000（円）	【一般管理費】79,301,000（円） 【情報発信・プロモーション】7,564,000（円） 【受入環境整備等の着地整備】49,908,000（円） 【コンテンツ（観光資源の磨き上げ）】19,440,000（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】100,000（円） 【観光イベントの開催費】等 20,310,000（円）
2026（Ｒ８） 年度	176,623,000（円）	【一般管理費】79,301,000（円） 【情報発信・プロモーション】7,564,000（円） 【受入環境整備等の着地整備】49,908,000（円） 【コンテンツ（観光資源の磨き上げ）】19,440,000（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】100,000（円） 【観光イベントの開催費】等 20,310,000（円）
2027（Ｒ９） 年度	176,623,000（円）	【一般管理費】79,301,000（円） 【情報発信・プロモーション】7,564,000（円） 【受入環境整備等の着地整備】49,908,000（円） 【コンテンツ（観光資源の磨き上げ）】19,440,000（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】100,000（円） 【観光イベントの開催費】等 20,310,000（円）

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載
市内事業所への協会加盟促進を図る
②ショップなは収益拡大に取り組む
③イベントオリジナルグッズ販売強化
④着地型商品（なはまちまーい販売強化）

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
那覇市は、本市地域(地域ＤＭＯ)として登録している、一般社団法人那覇市観光協会と連携して観光振興に努めます。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
（例）エリアが重複する●●ＤＭＯとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	玉村　剛
担当部署名（役職）	事務局次長
郵便番号	900-0013
所在地	沖縄県那覇市牧志 3-2-10
電話番号（直通）	098-862-1442
ＦＡＸ番号	098-971-1558
Ｅ－ｍａｉｌ	tamamura@naha-navi.or.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	那覇市

様式１

担当者氏名	與那覇
担当部署名（役職）	経済観光部観光課主幹
郵便番号	
所在地	沖縄県那覇市泉崎 1-1-1
電話番号（直通）	098-862-3276
ＦＡＸ番号	098-862-1580
Ｅ－ｍａｉｌ	59668HIRO@city.naha.lg.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（登録）【地域DMO】 一般社団法人那覇市観光協会

様式2

記入日： 令和7年7月29日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
沖縄県　那覇市
【設立時期】 昭和31年10月5日
【設立経緯】
③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】 会長　宮里　一郎
【マーケティング責任者（CMO）】 末吉　正幸
【財務責任者（CFO）】 平良さやか
【職員数】 25人（常勤15人（正職員4人・出向等1人）、非常勤5人）
【主な収入】
収益事業　28百万円、委託事業　33百万円（6年度決算）
【総支出】
事業費　103百万円、一般管理費　50百万円（6年度決算）
【連携する主な事業者】
一般財団沖縄観光コンベンションビューロー
那覇市観光ホテル旅館事業協同組合
那覇市飲食業衛生協同組合　一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年	2027（R9）年
旅行消費額（億円）	目標	2,114（　）	2,965（　）	3,815（　）	5,372（　）	5,496（　）	5,628（　）
	実績	1,907（　）	3,644（　）	4,340（　）	—	—	—
延べ宿泊者数（万人泊）	目標	488（　）	585（　）	782（　）	983（　）	1,184（　）	1,587（　）
	実績	495（　）	808（　）	900（　）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	94（　）	94（　）	94（　）	設定なし（　）	設定なし（　）	設定なし（　）
	実績	96.7（　）	95.9（　）	91.8（　）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	77（　）	78（　）	79（　）	設定なし（　）	設定なし（　）	設定なし（　）
	実績	72.1（　）	89.9（　）	57.6（　）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
国内観光客（東京・関西・福岡・名古屋）
アメリカ・ヨーロッパ
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・伝統行事（那覇ハーリー・那覇大綱挽）誘客
・スポーツイベント（読売巨人軍春季キャンプ）誘客
・世界遺産（首里城・識名園・玉陵）誘客
・修学旅行（東京・大阪）説明会参加誘致
【観光地域づくりのコンセプト】
世界遺産に登録されている琉球王朝の歴史・文化とその流れを汲んだ現在の那覇市の都市観光を楽しむ

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・ガイドと巡る街歩きの取組
・爬龍船乗船体験の商品造成

【受入環境整備】
・那覇市観光案内所運営
・クルーズ船臨時観光案内所運営
・多言語ボランティア運営
・Naha Walking Tours（外国人向け街歩き）
・観光従事者向け翻訳サポート

【情報発信・プロモーション】
・公式ホームページ運営
・地元大学との観光PV作製
・県外（祭り・物産展）参加

【その他】
・平和学習メニューの造成
【情報発信・プロモーション】